

中間のまとめに対するパブリックコメント一覧

通番	投稿者	要約	対応
1	1	<p>市民活動の支援について、又、市民協働についてはかなり記載がありますが、市民協働を進める上での市民参加についてはほとんど言及されていません。</p> <p>PDCAサイクルの各部分(特にPやC)への市民参加が増していくことが、市民活動の促進に資すると考えますが、いかがでしょうか。</p>	<p>協働について、本計画では多様な担い手により取り組まれるものと定義していますが、市民活動団体と行政の協働において、市民の参加が行われるべきであることは当然の前提であると考えています。その考えを計画の中に反映しています。</p> <p>参考:武蔵野市第五期長期計画 第6章 V 行・財政 基本施策1 (1)市政運営への市民参加の拡大 (P39) など。</p>
2	1	<p>地域コミュニティ活動は多くの人にかかわり、多くの活動をサポートしているという点でも貴重な活動ですので、その課題についても十分に検討していただきたいと思います。</p>	<p>コミュニティ協議会をはじめ、市民による自主的な活動の蓄積は重要であり、「はじめに」の中でその役割等について触れました。ただし、その課題の検討は本委員会とは別の場で十分に行なわれるべきと考えています。</p> <p>参考:武蔵野市第五期長期計画 第6章 III 文化・市民生活 基本施策1 (1)地域のつながりの共有 (P23) など。</p> <p>※通番10、47、50と同じ。</p>
3	2	<p>全体について</p> <p>1)全体概念体系図(概念構造が全体としてどのような構成・推進なのか)を入れて欲しい。</p> <p>2)「市民活動促進」というテーマのまとめとしての結論が不明確である。</p>	<p>全体についてわかりやすい表現等となるよう心がけます。</p>
4	2	<p>基本姿勢として、“オース条約”のような突っ込んだ内容(参画・情報収集の保証…)も入れて欲しい。</p>	<p>施策の実行に際しては、当然のことながら、市民の皆さんをはじめ、多様な担い手と協議して取り組んでいくことを記載しました。</p> <p>参考:武蔵野市第五期長期計画 第6章 V 行・財政 基本施策1 (1)市政運営への市民参加の拡大 (P39) など。</p>
5	2	<p>“協働の考え方”は図で示して欲しい(スペースもある)</p>	<p>全体についてわかりやすい表現等となるよう心がけます。</p>
6	2	<p>“施策の方向性”は取組内容の具体的推進方策(手順等)まで入れて欲しい。(単なる施策だけにしない様に)</p>	<p>具体的な事業内容と、その事業の前期・後期のスケジュールについて記載します。</p>
7	2	<p>グループインタビューは行政職員と市民と市議など混合型も入れた方が、更に多様な意見や解決方向も出てくると考える。</p>	<p>今後の課題とさせていただきます。</p>
8	3	<p>上位計画とともに、評価や見直しの理由を含めて従前計画を参照すべきであり、特段、市民が納得できる理由がなければ、そのように従前計画を参照して欲しい。</p>	<p>最終とりまとめでは、現行計画の達成状況等について整理し、それを踏まえた計画としています。</p>

中間のまとめに対するパブリックコメント一覧

通番	投稿者	要約	対応
9	3	<p>「市民活動促進基本計画」としたことについても、明確な理由や背景を示すべきである。「市民」とした点については、定義というまでもないだろうが、策定委員会での議論の経過や思いを含めて、しっかり説明した方がよい。</p>	<p>ご指摘の内容については、「はじめに」で記載することとしました。</p>
10	3	<p>コミセンの今後はそれ自体で委員会や市民を含めた議論を要する重要課題であり、単にコミュニティ協議会だけの問題ではないことを認識して欲しい。本計画案では、「市民」の定義には、自主性を尊重し、積極的に関わろうとするコミセンも市民として、計画案の対象であることを明記してはどうなのか。コミセンも市民活動を実践する一員となるのが望ましく、早急にコミュニティ協議会の今後について、市民を交えた議論をしっかり行うべきという委員長見解なども含めるなど、様々な工夫を行い、策定委員会での議論を市民全般に伝えて欲しい。</p>	<p>コミュニティ協議会をはじめ、市民による自主的な活動の蓄積は重要であり、「はじめに」の中でその役割等について触れました。ただし、その課題の検討は本委員会とは別の場で十分に行なわれるべきと考えています。</p> <p>参考：武蔵野市第五期長期計画 第6章 Ⅲ 文化・市民生活 基本施策1 (1)地域のつながりの共有 など。 ※通番2、47、50と同じ。</p>
11	3	<p>従前計画の評価を示しつつ、本計画を策定するにあたってのポイント、特に従前計画との違いを示すべきである。議論や調査結果から導かれたオリジナリティのある計画案とは思えない。従前計画と現計画案との比較表を作成いただくのもよい方法と思う。</p>	<p>最終とりまとめでは、現行計画の達成状況等について整理し、それを踏まえた計画としています。</p>
12	3	<p>「市民活動促進」よりも「市民活動活性化」計画とすべきとの意見に賛成である。「促進」とするなら、「促進」の定義をきちんと示し、市民活動の範囲や質的水準、公益性の確保、活性化なども含めた意味合いであることを定義、もしくは説明して欲しい。</p>	<p>本計画では、行政が一方向的に活動を促進するのではなく、目標や理念を整理し、武蔵野市全体で共有することをミッションのひとつとしています。すなわち、市全体で活動を促進しているというものです。</p> <p>市民活動の範囲等については、3ページと6ページに記載しています。その市民活動が相互に連携しながら促進されることで、本計画の目標とする地域・社会が実現されると考えています。</p>
13	3	<p>そもそも、「市民活動」は10年という期間にはなじまない。最初から3年、最大でも5年間を念頭に作成することが適切である。それを、毎年見直していくことが、日々状況が変わる「市民活動」にはなじむことである10年というのであれば、10年後に、武蔵野市の市民活動がどのように発展しているのか、その姿を具体的に描き、ビジョンやアウトカム、場合によっては数値目標として示すべきである。</p>	<p>先々を見通すことは困難である一方で、計画的な施策を展開していく上では、ある程度の期間の見通しを立てることも重要であると考えています。今回は、上位計画である第五期長期計画の計画期間にあわせて10年としましたが、ご指摘の内容も踏まえて、5年での見直しを想定しています。</p> <p>また、計画の目標について、指標を設定することを想定しています。</p>

中間のまとめに対するパブリックコメント一覧

通番	投稿者	要約	対応
14		<p>何が公益性かを本計画の中で定めるのではなく、ガイドラインとして設け、支援措置(補助や公的情報の提供等)を講じる場合や重要な業務を担わせる場合は、個々の支援内容や業務について、第三者委員会等を設けて審査するなどの方式をとればよい</p>	<p>支援対象とする市民活動の内容についてはあらかじめ限定することではなく、概念として整理しています。その旨、表現上留意します。</p>
15	3	<p>市民活動が疲弊していく可能性を指摘した意見が出たが、大変大事なことだと思う。このためには、5段階のステップをさらに詳細化し、サブステップとして展開していく工夫が必要であり、それが実際の活動の方向性にもつながるものと思われる。想いー萌芽ー実践という流れの中で、どのようなサブステップが設けられるかを考えて欲しい。活動実践期に入っても、何らかの理由で疲弊したり、活動をあきらめる場合があるかもしれない。他の組織が引き継いだり、新たな市民活動家に発展的につなげたりするようなマッチングや承継に向けた手続き、サブステップの選択があってもよいかと想われる。</p>	<p>活動のステップの説明の中に、そのような段階がありうることを書き加えます。</p>
16	3	<p>「NPO」・市民活動促進三原則は、ヒアリングの際の委員長のご説明からすれば、「市民」活動促進三原則として再構成しなければ矛盾するため、何らかの配慮が必要である。新たな計画を策定するのであれば、四原則や五原則を掲げてもよろしいのではないか。</p>	<p>NPO・市民活動促進三原則の手直しを行いました。</p>
17	3	<p>市民は、他団体間の協働や企業との協働は言われなくても合理性のある限りやっており、現段階では十分活性化している。むしろ、実現できていない「行政と市民との協働」を重視する姿勢を本計画では打ち出すべきである。</p>	<p>市民活動の活性化のためには、さらに団体同士の連携・協働の推進は必要と考えます。行政との協働については、職員意識の啓発や理念の共有が必要だと認識し、庁内体制の構築を施策としています。</p> <p>※26に一部同じ。</p>
18	3	<p>武蔵野市の協働が伸び悩んでいるとすれば、その最大の理由は、市の体制づくりに問題があるからである。8頁の最後の施策の部分に「協働に向けた庁内体制の構築」とあるが、この部分を市民と同様なレベル・項目になるように具体的に展開し、職員がその施策やルールにそって、市民との協働を行えるようにしなければいけない。特に管理職を対象に、協働への取り組みを義務として周知させるようなルールづくりが重要かつ必要である。</p>	<p>施策については、それぞれ具体的な事業を整理します。その中で、ご指摘のようなルール等を明確にすることを整理していきます。</p>

中間のまとめに対するパブリックコメント一覧

通番	投稿者	要約	対応
19	3	<p>小規模の団体は協力意向がないという説明だが、これはあたり前である。事業規模の小さい団体は総じて、自らの活動を維持するのが精一杯である。それでも小さな団体に協力させるというならば、その必要性はどこにあるのかを問いたい。この結果からは、支援施策設計の必要性は認められない。</p>	<p>策定委員会での議論や市民活動団体へのグループインタビューなどからも、団体のステップアップにおいて連携と協働が必要であるとの指摘も得られており、そのための機会を提供することは必要であると考えています。</p>
20	3	<p>予算規模別には、例えば500万円以上の予算規模をもった団体が37%以上ある点に注目し、それらの団体が行っている事業内容や行政からの補助金の程度についてクロス分析を行い、実態を把握することが重要である。</p>	<p>分析を行いません。</p>
21	3	<p>協働と非営利活動では、行政からの補助金や業務委託費が多いのは当然である。むしろ、それ以外が30%弱ある点に注目することが重要な視点である。つまり、この30%の分だけ、市が行うよりも、財政は軽減されているという点が大きなポイントである。さらに、70%の構成員(必要資金の70%という意味ではない)による行政からの資金が、納税者からみても、正当に使われているのかという検証を行っていくこと、モニタリングを行っていくことが、今後の重要な課題となる。</p>	<p>補助金や業務委託費の用途については、適切であると考えていますが、今後も引き続き検討して参ります。</p>
22	3	<p>市民活動による協働が進み、行政単独でやるよりもサービス向上や費用削減につながっていくかの評価を行うことを、計画案策定の中の重要課題として含めてほしい サービスの低下や財政難が深刻な課題となっており、こうした状況に対処していくためにも、市民活動、非営利活動は重要になる。市民活動をもっと、しっかりした目的意識からとらえて、計画にも盛り込んで欲しい。単に行政と市民とが仲良くやればよいということではない。ただし、この点は、市民活動をまったくの奉仕活動で行うという意味ではない。</p>	<p>市民活動の意義は、行政にない多様性、柔軟性、先駆性であり、行政のサービス提供と同列でコストを比較することは困難であると考えます。 本計画では市民活動が活性化することにより、地域・社会が豊かになることを目指しています。</p>
23	3	<p>連携状況について、規模の小さいところに、連携を促す必要が果たしてあるのだろうか。大半が連携を行っているという結果からみて、市民間の協働は十分な水準に達していると私は判断する。</p>	<p>策定委員会での議論や市民活動団体へのグループインタビューなどからも、団体のステップアップにおいて連携と協働が必要であるとの指摘も得られており、そのための機会を提供することは必要であると考えています。</p>

中間のまとめに対するパブリックコメント一覧

通番	投稿者	要約	対応
24	3	市民間の協働は引き続き重要ではあるが、もはや今後10年？を展望した場合の本計画の主たる課題ではない。	公共的な課題の解決において、複雑化する課題に取り組むには、市民間だけでなく、マルチステークホルダーの連携が今後ますます重要になっていくと考えています。
25	3	協働の実績と今後の意向の比較からは、協働を躊躇する姿勢がうかがえる。これはなぜなのかを真剣に考える必要がある。この背景には、後述のように、行政側の対応に課題があるとみられる	行政側の課題についても、施策の方向性の中で具体的な事業として整理することを想定しています。また、具体の課題についても整理しております。
26	3	市民活動団体へのグループインタビュー調査では市民活動団体の多くが、行政の協働の姿勢について問題を感じているという状況がひとつの結果としてうかがいあがる。	行政との協働については、職員意識の啓発や理念の共有が必要だと認識し、庁内体制の構築を施策としています。 ※17に一部同じ。
27	3	協働事業の実施体制。「市民団体等が発案して実施」という結果が40.2%であり、「市民団体とのやりとりからの発想」を含めると63.2%が協働事業に結びついていると市職員が回答している。これは市民側の立派な成果と言えるのではないかな？	もちろん、成果として評価しています。さらに理念を共有し、実践に活かしていきたいと考えます。
28	3	現在協働していない28課も協働事業に取り組めばどれだけ協働事業が増えるのだろうか。やはり、本計画案には行政側の対応を重視すべきである。	実際に協働していない課については、業務の性質上協働が難しいものもあります。市民活動団体のヒアリングからも、本来の意味で市民団体が立ち上がり、協働に至るよりは、行政側からの働きかけによるものが大きいとの指摘もあり、今後の課題として整理しています。
29	3	協働をやらないのかという質問を経験のない28課に設定しなかったのか。	実際のアンケート調査では協働を実施していない理由も把握しています。第2回策定委員会資料として配付しており、市のウェブサイトでも公表しております。
30	3	市民団体等に改善を求める内容の無回答の課を把握してほしい	無回答の課のほとんどが市民活動団体等との協働を実施していない課です。
31	3	行政として取り組む必要があると思われることの無回答は実に45.3%に達しており、行政側に協働に取り組む意識がない、あるいは協働を盛り上げる意欲がないと判断されても仕方がない。本計画では、行政側に向けたルールづくりをしっかりと明記していくことがより重要な課題と考えられる。	行政側が共通のルールや認識に立って協働を進める必要があることを、課題としても整理した上で、必要な事業を整理します。

中間のまとめに対するパブリックコメント一覧

通番	投稿者	要約	対応
32	3	今後の策定委員会の予定や計画自体がどう扱われていくかについての具体的なスケジュールが書面では提示されていない点が気になった。今後の予定はしっかり市民に示して欲しい。	今後のスケジュール等については別途提示させていただきます。
33	4	武蔵野市NPO活動促進基本計画(平成19～23年度)で出されている具体的支援策(優先順位A～C)の達成状況とその評価を踏まえた計画にして欲しい。	最終とりまとめでは、現行計画の達成状況等について整理し、それを踏まえた計画としています。
34	4	どんな地域・社会を目指すかは個々の市民、団体、さまざまであってよく、計画の前提として掲げるには無理がある。策定委員会レベルで打ち出すべきものとも思われない。この文章の位置づけを、前書き風に改めることが望ましい。	市民活動を促進していくうえで、具体的にどのようなゴールを目指すのかを明確にしていなければ、市民や市が同じ意識を持って進めて行くことが難しくなります。そういう観点から、目指すべき将来像として最初に整理しています。
35	4	団体の発展段階を把握することが行政として必要なか疑問である。行政の施策メニューを選ぶのは団体であり、行政が指定するものではない。	行政が指定するという意図でこのステップを整理しているのではなく、あくまでも施策の内容を検討する土台として整理したものです。その旨明確になるように内容を修正します。
36	4	「自律」は団体としての意志決定に関わるもので、その在り方について外部からとやかく言われる筋合いのものではない。	協働の担い手として、マネジメントは重要な要素であると考えています。
37	4	協働について、まず、この5年間の武蔵野市における協働の進捗状況と課題を整理してもらいたい。また、市民協働ハンドブックをどのように次の段階にもって行くのかの見通しを持ってほしい。	最終とりまとめでは、現行計画の達成状況等について整理し、それを踏まえた計画としています。
38	4	協働でこれから必要なのは、行政側と市民活動側と一緒に作り上げるコンパクトな協働実践協定書だと考えている。また、市民協働条例とか、市民活動活性化条例などを検討することもあり得ると考える。	施策「市民協働ハンドブックの見直し」のなかで、市民活動団体と行政とが協働して事業を取り組むにあたり、より具体的に役立つ内容となるよう検討していきます。
39	4	市民協働と市民活動促進という両者はつながっており、施策の上で縦割り化することのメリットはない。横断的部署としての市民協働推進課の位置づけをしっかりとって欲しい。必要があれば、市民活動支援課新設を検討して欲しい。	市民協働推進課は、「市民協働推進に関する総合調整に関すること」が分掌事務とされていることから、協働をマネジメント(総合調整)する課としての市民協働推進課の役割を進めることを施策に位置づけます。

中間のまとめに対するパブリックコメント一覧

通番	投稿者	要約	対応
40	4	武蔵野プレイスは市の施設であり、市が市民参加で運営するという基本理念を貫く必要がある。市民参加の運営協議会をつくる動きが今後必要である。	武蔵野プレイスへの課題として担当課へもあわせてご意見を伝えさせていただきます。
41	4	特に、実現していない次の2つの施策の引き継ぎを検討して欲しい。 * 市民活動ファンド設立はあきらめるのか？ * 企画提案型事業は取り込まないのか？	最終とりまとめでは、現行計画の達成状況等について整理し、それを踏まえた計画としています。
42	4	武蔵野プレイス3階を市民活動支援拠点と位置づけるなら、それにふさわしい管理・運営形態まで踏み込むべき。中間支援組織の育成を掲げるなら、中間支援組織に足場を与える施策を取らないと意味がない。 また、これまでの市民活動支援・市民協働支援の拠点であった市民協働サロンの3年10ヶ月を総括する必要がある。そこでの経験が武蔵野プレイス3階の運営に継承されていないことが問題	前計画の振り返り都課題において、市民協働サロンと武蔵野プレイスの位置づけについて整理しています。また、武蔵野プレイスでの取組についても、施策「武蔵野プレイスの有効活用」の中で整理していきます
43	4	将来ビジョンとして三駅圏に市民活動支援拠点を作ることが望ましい！ 市民協働サロンが縮小・再編され、実質的に三鷹駅圏(中央圏)が空白化したことへの対策が必要だ。	市民活動支援の拠点の配置について、三駅圏という構想はございません。 全市的な拠点としての武蔵野プレイス、地域における拠点としてのコミュニティセンター等の活用が重要であると考えています。
44	4	参考資料が興味深い。是非、前回のアンケート結果(2006年)と比較して、この五年間の市民活動団体の推移を分析して欲しい。	アンケート対象や設問が異なるなど、全てを比較することは困難ですが、13~15ページにおける「本計画策定における各調査から明らかになった課題」において、前計画における調査結果を参考としています。
45	4	ヒアリングの場でも出たが、あと2回でまとめるのは拙速だ。前回の基本計画は一年半かけている。じっくりと納得のいく内容に仕上げて欲しい。特に、庁内での調整が最重要だと考える。	策定委員会以外の場でも各委員とは意見交換を密にしながら、よりよい計画づくりを目指します。
46	5	委員会の立ち位置を明確にした方がわかりやすくなるのではないか。	本計画の策定委員会は、第三者の立場から、市民活動団体と市の双方にとって市民活動の促進のためには、何がどうあるべきかを公平に検討する立場にあります。

中間のまとめに対するパブリックコメント一覧

通番	投稿者	要約	対応
47	5	<p>全市で展開され、武蔵野市の市民活動の特徴を担う(よくも悪しくも)存在であるコミュニティ協議会について、ほとんど触れられていないのは、どうしてでしょうか</p>	<p>コミュニティ協議会をはじめ、市民による自主的な活動の蓄積は重要であり、「はじめに」の中でその役割等について触れました。ただし、その課題の検討は本委員会とは別の場で十分に行なわれるべきと考えています。</p> <p>参考:武蔵野市第五期長期計画 第6章 Ⅲ 文化・市民生活 基本施策1 (1)地域のつながりの共有 (P23) など。</p> <p>※通番2、10、50と同じ。</p>
48	5	<p>市民活動や協働の到達点を明確にし、その成果や積み重ねた経験に学びながら、今ある資源や現状の把握、過去の検証の上に、具体的な支援の方策などを示しながら、さらなる努力の道すじを示すことであると考えます。</p>	<p>最終とりまとめでは、現行計画の達成状況等について整理し、それを踏まえた計画としています。</p>
49	5	<p>今回初めて「長期計画」策定と各部課で取り組む諸計画と同時進行で進められています。今回の同時策定そのものを関係者でこの方式に対する検証・評価をしていただきたいと思えます。</p>	<p>今後の参考とさせていただきます。</p>
50	5	<p>「コミュニティ構想」「市民参加」40年になります。全市展開、最も認知度があり、市民活動としても最大規模、多くの人々の参加と利用に供されている建物・仕組み・考え方・活動などについての総括を前提にした基本計画が出されるべきです。これの動向は、今後の武蔵野市の市民活動・協働の活性化を左右するものであると考え、強く希望します。</p> <p>コミュニティ協議会では四十年、全くの素人が、大部分をボランティア中心の参加で、年間約百万人の利用者をさしたる事故もなく引き受けてきた…このことをまず評価したい。また、取組自体も、自主性を発揮して「公共」「自主」「コミュニティ」「地域に開かれているか」「人をつないでいるか」などの視点を設けて、自らに厳しい点検が必要だと思ふ。</p>	<p>コミュニティ協議会をはじめ、市民による自主的な活動の蓄積は重要であり、「はじめに」の中でその役割等について触れました。ただし、その課題の検討は本委員会とは別の場で十分に行なわれるべきと考えています。</p> <p>参考:武蔵野市第五期長期計画 第6章 Ⅲ 文化・市民生活 基本施策1 (1)地域のつながりの共有 など。</p> <p>※通番2、10、47と同じ。</p>
51	5	<p>進行中の困難を解決する為にこそ、計画を立て、税金を有効に使い、大勢の人に理解してもらい、参加を増やす必要があります。職員も市民もこのために自らの力量を高める必要があります。</p>	<p>ご意見として承ります。</p>

中間のまとめに対するパブリックコメント一覧

通番	投稿者	要約	対応
52	5	各部署に、このことなら・・・と責任を持つタイプの職員が少ない。3年毎の異動とあいまってせつかく話がかみ合うようになったのに、いなくなった・・・と嘆く声は巷に多い。こころ辺の見直しもしっかりお願いしたい。	武蔵野市第五期長期計画42ページ 基本施策6 チャレンジする組織風土の醸成と柔軟な組織運営 において対応していきます。
53	5	各地域の中に、よろず相談所の設置を提案したい。「よろず相談所」となれば協働推進課あたりが各課をつなぐ役割を引き受けると適役ではないか？率先して「多課協働」のモデルケースとしたい。ワンストップサービスの機能も必要。	市役所内部における多課連携について、市民協働推進課は「市民協働推進に関する総合調整に関すること」が分掌事務とされていることから、協働をマネジメント(総合調整)する課としての役割を進めることを施策に位置づけます。
54	5	地域の全ての活動・組織は、誕生し、成長したり、衰退したりしますが、必要な活動の継続をぜひにと望むならば、そこには、公的支援が必要です。「中間支援組織」が、学び合い・育ち合う人間関係を「活動の継続」の重要な要素と捉え、その方面の実力を備える必要があります。 参加のきっかけ作り、財政的支援、人や組織が、自ら育つ為の条件づくりなどの長い時間がかかる基盤の整備・継続の条件基盤づくりは、行政の役割です。	行政として、団体の活性化や維持に支援が必要であることは認識しております。団体の発展段階に応じて適切な支援が実施できるよう、財政、組織、人の様々な側面への支援を、「実施計画」としてとりまとめます。
55	5	域の市民活動の担い手の側に、環境の激変があることをしっかり認識する必要があります。かつて、市の社会教育の中で、成長する場と仕組みがありました。今はそういったものはありません。また、かつては普通の姿だった「専業主婦」が激減しています。 リタイヤ組が大きくなりますが、今後増えるキャリアウーマンのリタイヤ組も含めて、地域活動・市民活動への活用には、特段の仕掛けと工夫が必要です。	「基本施策1 (1)活動への参加機関の提供・充実 ③ターゲット別の活動のきっかけを提供する場の検討」17ページにおいて対応します。